岩本町東神田町会連合会 各町会マップ

安全・安心のまち 千代田
いつまでも住みつづけたいまち 千代田

町 会 区 域 住 所
1 岩本町三丁目、神田岩本町
2 岩本町二丁目 5・6・7・10・11・12 番
3 岩本町二丁目 8・9・18 番、19 番 1・2 号
4 岩本町二丁目 13~17 番、19 番（1・2 号除く）
5 神田東紺屋町、岩本町二丁目 1～4 番
6 岩本町一丁目
7 東神田一丁目 1～5 番・12~17 番、東神田二丁目 8～10 番
8 東神田一丁目 6~11 番、東神田二丁目 1～7 番

千代田区役所ホームページ
和泉橋出張所地域

あなたのお住まいの地域を管轄する
千代田区の出張所は・・・

和泉橋出張所です！

住所 〒101-0025 神田佐久間町一丁目11番地7
電話 03-3253-4931

岩本町東神田町会連合会
各町会の紹介

安全・安心のまち 千代田
いつまでも住みつづけたいまち 千代田

町会名／名所等	歴史	
1 岩本町三丁目町会 〈名所〉 ●岩本町ファミリーバザール	岩本町三丁目の北側の神田川南岸は柳原土手と呼ばれていました。その由来は、太田道灌が江戸城の鬼門（北東方向）にあたるこの界隈に稲荷を祀り、土手に柳を植えたことに始まります。江戸時代の後半になると、土手周辺には古着を扱う露店が集まり、明治に入った頃には、400 件もの古着屋が軒を連ね、「岩本町古着市場」と呼ばれるまでの賑わいを見せました。昭和に入ってからも、東京大空襲の惨禍を乗り越え、服の町として蘇えるなど、岩本町三丁目を支え、町の礎を築いてきたのはこうした繊維業者です。	
2 神田松枝町会 〈名所〉 ●お玉稲荷・ お玉が池種痘所跡石碑	町名は、大奥にいた「松ヶ枝」という老女中の名に由来するという説があります。江戸名所図会によると、このあたりには桜で有名な「桜ヶ池」がありましたが、池畔の茶店の看板娘「お玉」の悲話伝説にちなんで、「お玉が池」と呼ばれるようになったようです。池の周囲には、多くの文人墨客が私塾を開いていたほか、安政５年には、伊東玄朴や大槻俊斎ら、江戸の蘭学者たちが資金を出しあい種痘所をつくりました。この種痘所は、場所を変え、名前を変えながら後の東京大学医学部への発展していきます。	
3 岩本町二丁目岩井会	町名は、徳川将軍家の御用鎧師を務めた岩井家に由来するとされています。もともと湯島にありましたが、天和２年の大火の後、幕府からこの地を与えられ岩井町が誕生しました。ところが、享保年間にこの町も火災に遭い、被災した人々は柳原土手に移り「柳原岩井町」と定めたため、移転せずに残った人々は”こちらが元からある岩井町”という意味を込めて元岩井町としました。「江戸買物独案内（えどかいものひとりあんない）」には、町内に釘や鍋物を扱う鉄物（かなもの）問屋・三河屋があったと記されています。	
4 神田大和町会	江戸時代の初めまで、この界隈は武家屋敷が立ち並んでいましたが、享保年間に、龍閑川に架かる龍閑橋（内神田２丁目あたり）の北側にあった大和町の人々が幕府から現在地に代地を与えられ、移り住んで大和町代地となりました。幕末のころ大和町や東龍閑町（現岩本町三丁目）一帯には駄菓子問屋が軒を連ね、ずいぶん賑わっていたようですが、そのほかにも、蝋燭や鼈甲細工、箪笥職人なども多く住んでいました。その後、明治２年に周辺の町と合併して現在の神田大和町となりました。	

町会名／名所等	歴史	
5 神田東紺町会 〈名所〉 ●金山神社	東紺屋町は、昭和通りの西側の神田紺屋町と同じく、染物業者が多く住んでいた町です。町中を流れていた藍染川は布を染めては洗うため、藍色に染まって流れていたそうです。同時に、この町は金物を扱う職人町でもありました。昭和通りから東に少し入ったところに金山神社がありますが、この神社は、昭和初頃に東京金物同業組合が総本宮南宮大社の御分霊を奉斎し創建されました。鉱山、冶金、鍛冶など、金属関係をつかさどる神社です。また、神社の斜め前にはその昔、この一帯に広がっていたお玉が池にちなんだ銭湯お玉湯があります。	
6 岩本町一丁目町会	岩本町一丁目は、江戸時代には東福田町、材木町、東今川町、亀井町に分かれていましたが、明治元年、東福田町、材木町、東今川町の３町に区割りされました。この町は神田と日本橋を分かつ町で、かつては日本橋との境を龍閑川が流れ、多くの橋が架かけられていました。龍閑川も戦後に埋め立てられましたが、その跡が今も町会区域の東端から西端へ東西に細道として残っています。また、東端には龍閑児童公園、西端の昭和通り沿いには地蔵橋東児童遊園があり、龍閑川にちなんだ名前が残されています。	
7 東神田町会	東神田界隈には、江戸時代、橋本町や江川町、富松町、久右衛町という町がありましたが、昭和９年、関東大震災後の復興計画によって、江戸時代から連綿と続いてきた町名が東神田に改められました。かつての町には、それぞれ歴史がありますが、なかでも橋本町は牛馬の売買や仲買をする幕府の博労役（ばくろうやく）、橋本源七がこの地に土地を与えられたことに由来するといわれています。南に隣接する馬喰町（現・日本橋馬喰町）にも博労が住んでいて、馬市が盛んに開かれていたそうです。	
8 東神田豊島町会	豊島町は、江戸中期の頃、元禄地震で被災した湯島の人々が移り住み誕生しました。その後、馬喰町や横山町と接するこの町には、梱包用の莚や菰、荒縄などを商う藁（わら）商、旅籠向けのお茶や菓子、土産用の駄菓子を扱う店、飲食店などが軒を並べるようになりました。「江戸買物独案内」には、銘茶処伊勢屋、菓子屋鶴屋が、また、「江戸食物独案内（えどたべものひとりあんない）」には芋酒屋の鬼熊、雑菓子卸の青野屋などの名前を見ることができます。また、明治になると旅館の豊島館、龍角散の藤井薬種店などがあって、大変賑わっていました。	